

はじめに

サクラサクと女子力

地域活動実践センター 副センター長 西 畑 敏 秀

文字面も美しい『サクラサク』という言葉は、一般的には入試や検定などで合否を知らせる電報の文体のひとつ。自分の大学受験の時に使用したかどうかは定かではないが、最近は電報を打つ機会も少なくなった。しかし今でも携帯メール等での簡単な連絡メッセージとして言葉自体は活きた使い方をされているのではないかと思うし、同名の歌も数多く作られているようだ。

そして2014年、新年早々から福井の地元新聞はこの『サクラサク』で連日のように紙面がにぎわっている。シンガーソングライターで小説家でもあるさだまさし氏の福井（美浜町）を舞台にした同名の小説が映画化され、県や美浜町はもちろん、福井県民はたいへん盛り上がっているのだ。

この映画の監督をつとめた田中光敏氏には、2013年2月に当センターの公開講座で公開前の2014年お正月映画『利休にたずねよ』を題材に、映画づくりにおけるさまざまなエピソードや人と人との関わりについて講演をしていただいた。当時はまだ映画『サクラサク』の製作に向けて営業活動の最中であり田中監督も、県民のみなさんの熱意でぜひ実現させましょう！と賛同を求めている。そして2014年4月に全国ロードショーとなったのだが、実はこの映画ができるまでには、Wさんという一人のさだまさしファンである女性の想いと努力が礎になったという背景がある。Wさんは小説に登場する美浜町早瀬のお寺を訪ね（なんと本学の卒業生が嫁がれているとのこと）、小説の朗読会を企画し、関係者や協賛企業のコンタクト、ロケ地探し、資金集めと、映画製作に立ちはだかるあらゆる壁をボランティアで汗を流し乗り越え、10年来の夢をとうとう現実にしてしまった。編集時に立ち会って意見を求められたWさんはただ泣くばかりで、ちっとも役に立たんかったわ！と田中監督が笑顔でやさしく語っていたのがとても心に残った。

公開講座の前日、生活環境専攻の学生が主催した打ち上げパーティにも田中監督とWさんは参加されて、ノンアルコールで大いに盛り上げていただいた。私利私欲やわがままではなく、本当のやる気と情熱と行動が、人を企業を社会を行政を動かしてしまったという、これこそ映画のような逸話。

さだまさし氏の実経験をもとにしたという、家族の絆に焦点をあてた原作は、Wさんの女子力と田中監督の創造力によって全国公開の映画となり、多くの人々に感動の輪を広げるだろう。

そしてわが福井の素晴らしさも。